昭和48年11月17日第三種郵便物認可

叛旗

共産主義者同盟

2月1日
毎月1日、15日発行
第85号
価格50円
定期購読料 半年分1800円（千代田）
（郵送・半年900円一年1800円）

発行所／蒼氓社
編集人 仲代義理 発行人 川崎文人
東京都新宿区百人町1－11－31 斉藤ビル内（郵便番号160）
電話 03（362）0149／振替
東京162856番（宛先共産同「叛旗」編集委員会）／関西蒼氓社 電話 06（451）4803

○公判日程
2月18日 一時 千葉地裁
9・18製鉄十字路闘争公判
2月28日 一時 東京地裁
6・14羽田闘争公判
3月5日 一時 東京地裁
11・19佐藤闘争公判（高橋修・農終弁論）
3月19日 一時 東京地裁
6・14羽田闘争公判
3月24日 一時 千葉地裁
三里塚第二次反対同盟等公判

若疑シク覚候ハバ
我等ノ所業終候処ヲ
爾等眼ヲ開テ看ヨ

立大学費闘争中間総括
立大反帝戦線

昨秋期から今年初頭にかけての立大学費闘争に関し、闘争の展開が、巡じた現在、私たちもなしつつ闘争の展開には相後して闘争に様々関与した諸部分を整理されている。多くの学生はどんな発行されてかレポートを書きに追いまくられていたり、あるいはレジャーかなんかバイトにかにかは徹底されている限りつとしかたがうちに発生していう。しかし闘うことが殺しやすることが必要なのだ。自己の実践から学ぶ内容を方法も見出たないであろう。解放は自己解放命を闘うという人集考えの様式は快して呼ばれる。大学の管理者共がしばしば使っていたように、ただ主観的に、私たちが来たこと、そして反差別派閥流としてくるのが一番良くつかわしかった部分も同様に被害意識にかられていた。そのままに大学の日常の教序構成

諸論争の展開と批判の再構成

六十年代後半の高揚をそれ以後の後退期同盟が要求する学費闘争の戦略的な課題として、旧来の学生運動の先験的な枠を超えた地平で、闘争の学費闘争の枠を超えた地平で、闘争の学費闘争の枠を超えた地平で、闘争の学費闘争の

大道無門——革命派の基準と鞍部——

共産主義者同盟政治局

補論

運動——組織の内的水準

——情況は組織に何をもたらしているか——

歴史的な諸経験とは何か

——自立思想と自立的諸闘争の15年——

歴史的連続性と社会的有機構成の連環性のヴィジョン

——集団編成論と身体行為論の深化——

補論は当初、個別闘争や日常的諸活動として現象する領域の事柄を中心に言及してみる予定であったが、新年号（八三号）と併読されれば幸いである。

——（編集局註）

昨年の後半、「革命組織の再建化」という根本問題は、「政治的実践根拠の場所」としたことなどを通じて、「政治的実践根拠の場所」とは